

キャノンマーケティングジャパングループ 2021年度第1四半期 決算説明

2021年4月23日

キャノンマーケティングジャパン株式会社

取締役上席執行役員 蛭川 初巳

Canon

キャノンマーケティングジャパン株式会社

- 本資料では、億円単位未満の端数は四捨五入により表示しております。
- 本資料で記述されている業績予想及び将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

決算のポイント 第1四半期(1月～3月)

売上高 1,404億円 (前年比 △11億円／△1%)

- ✓ コンシューマは増収となったものの、エンタープライズ、エリア、プロフェッショナルが減収となり、減収

営業利益 106億円 (前年比 +28億円／+36%)

- ✓ コンシューマにおいてインクジェットプリンターやレンズ交換式デジタルカメラの高付加価値製品が伸びたこと等による荒利の増加と、販管費の削減に努めたことにより増益

**親会社株主に帰属する
四半期純利益 80億円 (前年比 +39億円／+95%)**

2

2ページ目は、1Q決算のポイントになります。

売上は、コンシューマセグメントでインクジェットプリンターやレンズ交換式デジタルカメラの高付加価値製品やITプロダクトの販売増加がありましたが、オフィスでのプリントボリューム減少に伴う保守サービスの減少等があり、1%減の1,404億円となりました。

営業利益は、コンシューマセグメントにおいて高付加価値製品の構成比を高めたこと等で荒利が増加するとともに、全社的な販管費の削減に努めたことにより、28億円増益の106億円となりました。

親会社株式に帰属する四半期純利益は、昨年連結子会社であったキヤノンライフケアソリューションズを売却したことによる売却損が発生していたことや、本年連結子会社であったエディフィストラainingの売却をしたことによる売却益が発生したこと等により、39億円増益の80億円となりました。

セグメントごとの詳細につきましては、この後ご説明致します。

業績サマリー 第1四半期(1月～3月)

Canon

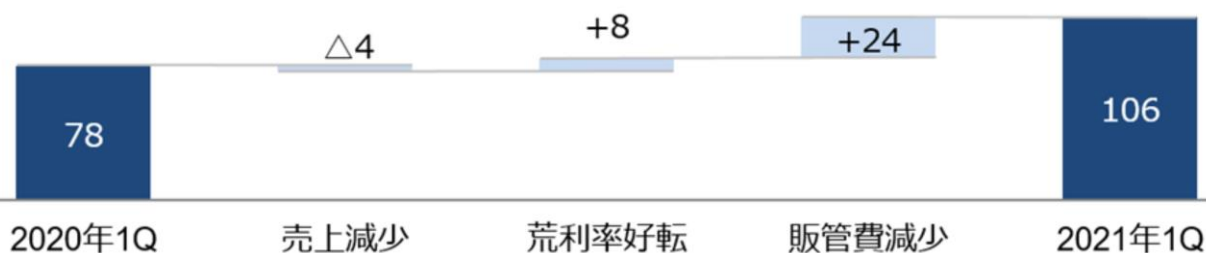
(単位：億円)

	2020年 1Q	2021年 1Q	前年同期比較	
			金額	率
売上高	1,415	1,404	△11	△1%
	(33.1%)	(33.7%)	(+0.6%)	
売上総利益	469	473	+4	+1%
	(5.5%)	(7.5%)	(+2.0%)	
営業利益	78	106	+28	+36%
	(5.5%)	(7.8%)	(+2.3%)	
経常利益	78	109	+31	+40%
	(2.9%)	(5.7%)	(+2.8%)	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	41	80	+39	+95%

3ページ目は、1Qの業績サマリーです。

営業利益分析 第1四半期(1月～3月)

(単位：億円)



荒利率好転

- ・主にコンシューマセグメントにおける荒利率の好転

販管費減少

- ・広告宣伝費減 △3億円
- ・販売促進費減 △4億円
- ・人件費減 △12億円

続いて4ページ目は、1Qの営業利益分析です。

売上の減少に伴い荒利が4億円減少しておりますが、コンシューマセグメントにおいて、インクジェットプリンターやレンズ交換式デジタルカメラが高付加価値製品を中心に売上が伸びたことにより、荒利率が好転しております。

販管費につきましては、退職給付費用の減少や時間外手当の減少等により、12億円減少しております。また、新型コロナウイルス感染症の影響等により、引き続き大規模なイベントや店頭でのイベント等を行っていないこと等により、広告宣伝費や販売促進費も減少しております。

なお、販管費の詳細は17ページの「販管費の内訳」をご参照ください。

セグメント概要 第1四半期(1月～3月)



	2020年 1Q		2021年 1Q		(単位：億円) 増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	246	0	306	30	+60	+30
エンタープライズ	506	37	473	36	△34	△1
エリア	620	36	594	40	△26	+4
プロフェッショナル	87	7	82	7	△5	+0
その他	△45	△2	△51	△6	△6	△4
合 計	1,415	78	1,404	106	△11	+28

※「その他」には、セグメント間内部売上高とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。

※2021年より、これまで「エリア」セグメントにおいて中堅・準大手顧客向けに直販を行っていた組織の一部を、「エンタープライズ」セグメントへ移管しております。これに伴い、各セグメント間で2020年実績の組替を行っております。

5ページ目は、1Qのセグメント別の実績概要です。

- ✓ 売上高は、インクジェットプリンター本体やレンズ交換式デジタルカメラ、ITプロダクトの売上が増加したこと等により、大幅増収
- ✓ 営業利益は、高付加価値製品の売上構成比が高まったことによる荒利の増加や、販管費の削減に努めたことにより、大幅増益

(単位：億円)

	1Q実績		
	2020年	2021年	対前年
売上高	246	306	+24%
営業利益	0	30	-
利益率	0.1%	9.8%	+9.7%

■コンスーマ製品（対前年伸び率）

		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間
レンズ交換式デジタルカメラ	(台数)	△20%				
コンパクトデジタルカメラ	(台数)	△2%				
インクジェットプリンター	(台数)	+34%				
インクジェットプリンターカートリッジ	(金額)	△0%				

6

続いて6ページ目からは、セグメント別の実績をご説明します。

1Qのコンスーマセグメントは、インクジェットプリンターやレンズ交換式デジタルカメラが高付加価値製品を中心に売上が伸びたことや、ITプロダクトの増加等により、売上は対前年24%増の306億円となりました。営業利益は、高付加価値製品の売上構成比が高まったことによる荒利の増加や、販管費削減に努めたことにより、対前年30億円増益の30億円となりました。

（デジタルカメラ）

レンズ交換式デジタルカメラは、一眼レフカメラを中心に個人のお客さまの需要が引き続き縮小していることに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い撮影機会が減少したことから、台数は対前年マイナス20%となりました。一方で、昨年発売した「EOS R5」「EOS R6」を中心に高単価なミラーレスカメラや交換レンズの売上構成比が上がったことにより、売上金額は前年を大きく上回りました。

（インクジェットプリンター）

家庭用インクジェットプリンターは、在宅需要の伸びに伴い前期末の市中在庫が低い水準となっていたことから、販売店向けの出荷が増加しました。また、引き続き在宅勤務の需要が高く、高付加価値製品を中心に好調に推移しました。特大容量タンク「GIGA TANK」を搭載した製品等も引き続き順調に推移し、インクジェットプリンターの売上は大幅に増加しました。一方、インクカートリッジについては、カラープリント減少等による市場の縮小に伴い微減となりました。

（ITプロダクト）

ITプロダクトは、引き続き在宅勤務の需要が高くPCの周辺機器が増加したことや、ゲーミングPCの販売が伸び、売上が大幅に増加しました。

セグメント情報 エンタープライズ

- ✓ 売上は、テレワーク継続によるプリントボリュームの減少に伴い、保守サービス、レーザープリンターカートリッジが減少した影響等により、減少
- ✓ 営業利益は、売上減による荒利減により、減益

(単位：億円)

	1Q実績		
	2020年	2021年	対前年
ビジネス機器他	188	161	△14%
ITソリューション	318	311	△2%
売上高計	506	473	△7%
営業利益	37	36	△3%
利益率	7.3%	7.5%	+0.3%

■ (ご参考) 主要関係会社実績

キヤノンITソリューションズ

	1Q実績		増減	
	2020年	2021年	金額	率
売上高	236	245	+8	+4%
営業利益	23	24	+1	+4%

キヤノンITソリューションズ受注高・受注残高 (対前年伸び率)

	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間
受注高	(金額)	+1%	-	-	-
受注残高	(金額)	+14%	-	-	-

7

7ページ目は、エンタープライズセグメントのご説明です。

以前から担当していた大手企業に加えて、2021年1月にエリアセグメントから準大手・中堅向けのビジネスを移管し、大手、準大手・中堅企業向けの営業活動を行っております。

1Qの売上は、キヤノンITソリューションズについては堅調に推移したものの、お客さまのテレワークが継続しオフィスでのプリントボリュームが減少し、保守サービス、レーザープリンターカートリッジが減少した影響等により、対前年7%減の473億円となりました。営業利益は、売上減による荒利減の影響により、対前年1億円減益の36億円となりました。

(ビジネス機器他)

主要ビジネス機器の状況につきましては、オフィスMFPやレーザープリンターは、引き続き大手企業のオフィス機器への設備投資が抑制傾向にあること等により、売上は減少しました。オフィスMFPの保守サービス、レーザープリンターカートリッジについては、引き続きテレワークが拡大しオフィスにおけるプリントボリュームが減少したことにより、売上は減少しました。

(ITソリューション)

ITソリューションにつきましては、金融業向けのSI案件や文教向けのオンライン化ニーズに対応した案件、データセンター2号棟が堅調に推移したものの、前年にITプロダクトの大型案件があったことの反動減等により、売上は対前年2%の減収となりました。

(キヤノンITソリューションズ実績/受注高・受注残高)

主要関係会社のキヤノンITソリューションズの売上は対前年4%増の245億円、営業利益は1億円増の24億円となりました。

受注高は、金融業向けのシステム開発案件やデータセンター関連の案件が堅調に推移したこと等により、対前年1%の増加となっております。

また、受注残高は金融業向けに受注が拡大していることや、昨年のデータセンター1号棟の更新案件の影響等により、対前年14%の増加となっております。

- ✓ 売上は、テレワーク継続によるプリントボリュームの減少に伴い、保守サービス、レーザープリンターカートリッジが減少した影響等により、減少
- ✓ 営業利益は、売上減による荒利減を販管費の削減に努めたことで、増益

(単位：億円)

	1Q実績		
	2020年	2021年	対前年
ビジネス機器他	437	421	△4%
ITソリューション	183	172	△6%
売上高計	620	594	△4%
営業利益	36	40	+10%
利益率	5.8%	6.7%	+0.9%

■ (ご参考) 主要関係会社実績

キヤノンシステムアンドサポート

	1Q実績		増減	
	2020年	2021年	金額	率
売上高	275	262	△13	△5%
営業利益	8	10	+3	+35%

8

8ページ目は、エリアセグメントのご説明です。

1Qの売上は、前年にビジネスPCの入れ替え需要が継続していた反動による減少や、お客さまのテレワークが継続しオフィスでのプリントボリュームが減少し、保守サービスが減少した影響等により、対前年4%減の594億円となりました。営業利益は、販管費の削減に努めたことにより対前年4億円増益の40億円となりました。

(ビジネス機器他)

主要ビジネス機器の状況につきましては、オフィスMFPやレーザープリンターは、昨年从去年から後ろ倒しになっていた案件の受注が進んだ結果、売上は増加しました。オフィスMFPの保守サービス、レーザープリンターカートリッジにつきましては、大都市圏を中心にテレワークが拡大し、オフィスにおけるプリントボリュームが減少したことにより、売上は減少しました。

(ITソリューション)

ITソリューションにつきましては、テレワーク環境の構築需要が継続しており、IT支援クラウドサービス「HOME」やウイルス対策ソフト「ESET」等のセキュリティの売上が増加しました。また、お客さまのIT機器等の保守や運用サービスの獲得に注力し、受注件数を伸ばしました。しかしながら、前年同期にビジネスPC等のITプロダクトの売上が増加していた反動等により、ITソリューション全体の売上は、対前年6%の減収となりました。

(キヤノンシステムアンドサポート実績)

主要関係会社のキヤノンシステムアンドサポートの売上は、対前年5%減の262億円、営業利益は売上減による荒利減を、販管費の減少で補い、3億円増の10億円となりました。

* エリアここまで

<ネットワークカメラ>

なお、「補足資料」に記載されております、グループ全体のネットワークカメラの1Q実績につきましては、引き続き中小企業を中心に遠隔監視や遠隔操作等の人との接触を避けた遠隔での映像の利活用のニーズが高いことや、公共施設の大型案件があった影響等により、売上は対前年プラス2%となりました。

セグメント情報 プロフェッショナル

- ✓ 売上高は、産業機器が伸びたものの、プロダクションプリンティングや医療ITが減少し、減収
- ✓ 営業利益は、産業機器の保守サービスが増益したこと等により、増益

(単位：億円)

	1Q実績		
	2020年	2021年	対前年
プロダクションプリンティング	28	23	△17%
産業機器	36	37	+1%
ヘルスケア	23	22	△3%
売上高計	87	82	△6%
営業利益	7	7	+3%
利益率	7.6%	8.3%	+0.7%

■ (ご参考) 主要関係会社実績
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ

	1Q実績		増減	
	2020年	2021年	金額	率
売上高	26	21	△5	△19%
営業利益	1	1	△0	△36%

9

9ページ目は、プロフェッショナルセグメントのご説明です。

1Qのプロフェッショナルセグメントは、産業機器が堅調に推移したものの、プロダクションプリンティングや医療ITが減少し、売上は対前年6%減の82億円となりました。営業利益については、産業機器の保守サービスが伸びたこと等により、対前年2千万円改善の7億円となりました。

(プロダクションプリンティング)

プリントボリューム低下等に伴う消耗品販売の減少や、連帳プリンター本体の売上が減少したこと等により、売上は対前年マイナス17%となりました。

関係会社であるキヤノンプロダクションプリンティングシステムズの売上は対前年19%減の21億円となりました。営業利益は、販管費の削減に努めたものの、売上減による荒利の減少により、対前年3千万円減の5千万円となりました。

なお、お手元の補足資料の「ビジネス機器」の下から2行目に、プロダクションプリンティングに他セグメントの売上となっているプロダクションプリンタービジネスを加えた「グループ商業印刷」として、売上対前年増減比を記載しております。「グループ商業印刷」の1Qは、マイナス9%となりました。

(産業機器)

半導体製造関連装置の保守サービスや検査計測装置が伸び、売上は対前年でプラス1%となりました。

(ヘルスケア)

病院向けの電子カルテをはじめとする病院情報システムならびに医療IT基盤の構築等が微減で推移したことや、調剤薬局向けや診療所向けの案件数が減少したこと等により、売上は対前年マイナス3%となりました。

■ セグメント別

	2020年 1Q	2021年 1Q	増減	
			金額	率
エンタープライズ	318	311	△6	△2%
エリア	183	172	△10	△6%
その他	69	90	+20	+29%
合計	570	573	+4	+1%

■ 商品・ソリューション別

	2020年 1Q	2021年 1Q	増減	
			金額	率
SIサービス	191	188	△3	△1%
保守・運用サービス/アウトソーシング	97	99	+2	+2%
システム販売・ITプロダクト	281	286	+5	+2%
合計	570	573	+4	+1%

※2021年より、ネットワークカメラ等の事業をITソリューション売上に加算している影響により、2020年実績についても組替を行っております。

10

10ページ目は、グループトータルのITソリューション売上です。

2021年よりネットワークカメラ関連の売上をITソリューションとしてカウントすることとし、商品ソリューション別のシステム販売・ITプロダクトに計上しております。

現在のネットワークカメラ事業は、カメラ単品で販売を行うよりも、ソフトウェアやクラウドサービス等のITソリューションと一体となった提案が主流となっております。

なお、2020年実績については、ネットワークカメラの追加や、一部商品の組替を行っております。

1Qの実績についてご説明します。

セグメント別の、エンタープライズ、エリアの状況に関しては、セグメント情報でお伝えしております通りです。その他についてはコンシューマセグメントにおいてITプロダクトが好調だったことにより増収となりました。

続いて、商品・ソリューション別の状況についてご説明します。

「SIサービス」は、キヤノンITソリューションズ単体では金融業向けの案件が堅調に推移し増収となりましたが、その他のグループ会社で前年の反動減があった影響等により、減収となりました。

「保守・運用サービス/アウトソーシング」は、昨年10月に竣工したデータセンター2号棟が売上寄与していることや、テレワーク需要の拡大に伴い中小企業向けのIT支援クラウドサービス「HOME」や、注力しているIT保守が堅調に推移したこと等により、増収となりました。

「システム販売・ITプロダクト」は、ビジネスPCの入れ替え需要の反動減がありましたが、在宅勤務の需要が継続しており、PCの周辺機器が増加したことや、ゲーミングPCが好調に推移した結果、増収となりました。

業績予想サマリー

(単位：億円)

	2021年 年間 (前回予想)	2021年 年間 (予想)	増減		2020年 年間 (実績)	前年比較	
			金額	率		金額	率
売上高	5,600	5,670	+70	+1%	5,451	+219	+4%
	(5.8%)	(6.0%)	(+0.2%)		(5.7%)	(+0.3%)	
営業利益	325	340	+15	+5%	313	+27	+9%
	(5.9%)	(6.1%)	(+0.2%)		(6.5%)	(△0.3%)	
経常利益	333	348	+15	+5%	352	△4	△1%
	(4.0%)	(4.1%)	(+0.1%)		(4.0%)	(+0.1%)	
親会社株主に帰属する 当期純利益	225	235	+10	+4%	220	+15	+7%

11ページ目は、業績予想サマリーです。

1Qの進捗を踏まえ、
売上を70億円、営業利益を15億円、経常利益を15億円、
親会社株主に帰属する当期純利益を10億円上方修正しております。

業績予想 セグメント概要 前回予想比較



(単位：億円)

	2021年 年間 (前回予想)		2021年 年間 (予想)		前回予想比較		
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上 金額	率	営業 利益
コンシューマ	1,211	90	1,281	100	+70	+6%	+10
エンタープライズ	1,927	116	1,927	119	-	-	+3
エリア	2,285	115	2,285	117	-	-	+2
プロフェッショナル	347	24	347	24	-	-	-
その他	△170	△20	△170	△20	-	-	-
合計	5,600	325	5,670	340	+70	+1%	+15

※「その他」には、セグメント間内部売上高とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。

12

12ページ目は、セグメント別業績予想の前回比較です。

在宅勤務需要などによりインクジェットプリンターが引き続き好調に推移していることや、ITソリューションにおきましても当初の計画を上回る見通しとなったこと等を踏まえ、コンシューマセグメントで、売上を70億円、営業利益を10億円
エンタープライズセグメントで3億円、エリアセグメントで2億円営業利益を上方修正しております。

また、この修正に伴い、お手元の別紙「【補足資料】2021年1Q主要製品売上・台数」についても見直しを行っております。

なお、2Q以降の見通しについて

カメラについては、昨年落ち込んだ反動により、市場が回復することで、売上増加を見込んでおります。一方で、インクジェットプリンターについては、在宅勤務に加え自宅学習が拡大したことで昨年は需要が高くなっていた反動等により、本年は減少する見通しであります。

主要ビジネス機器については、保守サービスは大企業を中心にテレワークが継続することで、オフィスでのプリントボリュームが減少することに伴い売上も減少となる見通しです。一方で、オフィスMFPやレーザープリンターについては、昨年新型コロナウイルス感染症の影響で案件が減少したことや、営業活動に制限があったことにより、販売台数が大きく減少したため、その反動増を見込んでおります。

ITソリューションについては、大企業向けは引き続き金融業の案件が堅調に推移することに加え、製造業の受注環境が回復することで、生産管理や需要予測の案件獲得が進む見通しであります。また、中小企業向けは、引き続きテレワーク環境の構築需要があることを想定しており、セキュリティやIT保守サービスが増加する見通しであります。

業績予想 セグメント概要 前年比較

(単位：億円)

	2020年 年間 (実績)		2021年 年間 (予想)		前年比較		
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上 金額	率	営業 利益
コンスーマ	1,247	123	1,281	100	+34	+3%	△23
エンタープライズ	1,846	94	1,927	119	+81	+4%	+25
エリア	2,237	90	2,285	117	+48	+2%	+27
プロフェッショナル	307	19	347	24	+40	+13%	+5
その他	△186	△13	△170	△20	+16	-	△7
合計	5,451	313	5,670	340	+219	+4%	+27

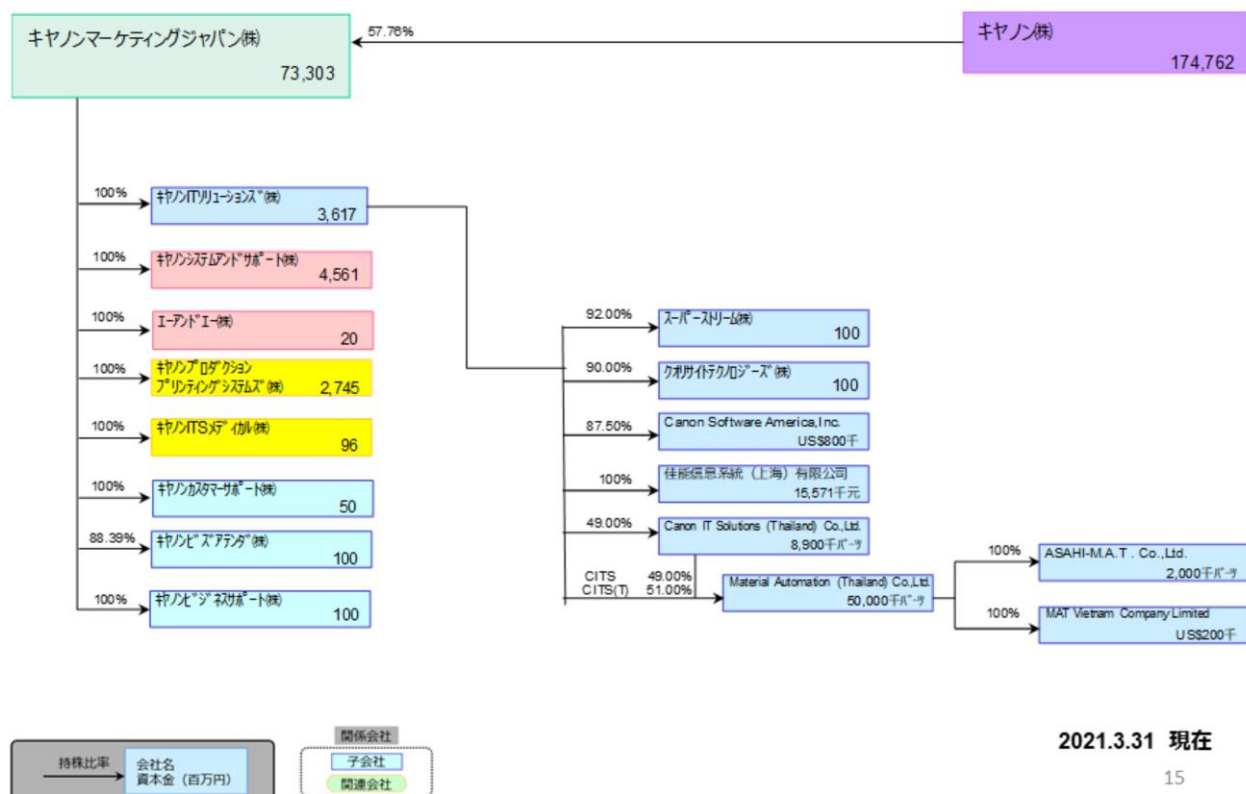
※「その他」には、セグメント間内部売上高とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。

※2021年より、これまで「エリア」セグメントにおいて中堅・準大手顧客向けに直販を行っていた組織の一部を、「エンタープライズ」セグメントへ移管しております。これに伴い、各セグメント間で2020年実績の組替を行っております。なお、精査を行った結果、1月に発表した20年実績の数字を一部変更しております。

13ページ目は、セグメント別業績予想の前年比較です。

参考資料

【参考】関係会社出資関係図



【参考】主要関係会社実績 第1四半期(1月～3月)

Canon

(単位：億円)

		2020年 1Q	2021年 1Q	増減	
				金額	率
エンタープライズ					
キヤノンソリューションズ	売上高	236.4	244.7	+8.3	+4%
	営業利益	23.3 (9.8%)	24.3 (9.9%)	+1.0 (+0.1%)	
エリア					
キヤノンシステムアンドサポート	売上高	274.8	262.0	△12.8	△5%
	営業利益	7.7 (2.8%)	10.4 (4.0%)	+2.7 (+1.2%)	
プロフェッショナル					
キヤノンプロダクション プリンティングシステムズ	売上高	26.4	21.4	△5.0	△19%
	営業利益	0.8 (3.2%)	0.5 (2.6%)	△0.3 (△0.7%)	

【参考】販管費の内訳 第1四半期(1月～3月)

(単位：億円)

	2020年 1Q	2021年 1Q	増減
広告宣伝費	11	8	△3
販売促進費	10	6	△4
保証費	9	8	△1
その他直接費	45	43	△2
人件費	249	237	△12
減価償却費	2	3	+0
その他販売費	65	62	△3
合計	391	367	△24

【参考】営業外収支の内訳

(単位：億円)

	2020年 1Q	2021年 1Q	増減 1Q
受取利息	1	1	+0
受取配当金	0	0	△0
投資事業組合運用益	-	2	+2
その他	1	2	+1
営業外収益 計	2	4	+3
支払利息	0	0	△0
為替差損	0	0	△0
その他	1	1	△0
営業外費用 計	1	1	△0

【参考】特別損益の内訳

(単位：億円)

	2020年 1Q	2021年 1Q	増減 1Q
固定資産売却益	3	0	△3
関係会社株式売却益	-	9	+9
その他	0	0	△0
特別収益 計	3	9	+6
固定資産除売却損	0	0	△0
関係会社株式売却損	7	-	△7
その他	0	-	△0
特別損失 計	8	0	△7

【参考】貸借対照表

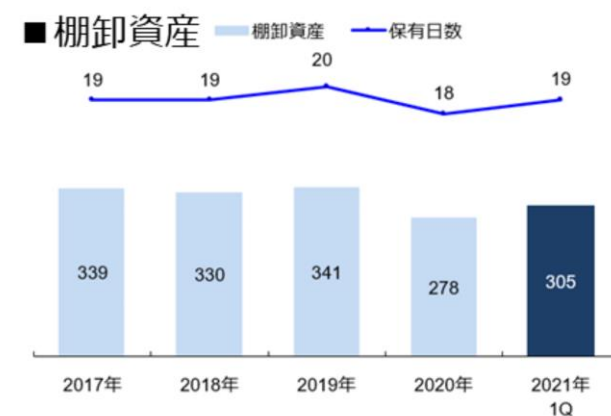
	2020年 12月	2021年 3月	増減
資産	5,066	5,078	+12
流動資産	3,803	3,807	+3
金融資産	601	664	+63
売掛債権	1,053	975	△78
棚卸資産	278	305	+27
その他	1,871	1,862	△8
固定資産	1,263	1,271	+8
有形固定資産	837	841	+4
無形固定資産	57	60	+3
投資その他	369	370	+1
負債	1,605	1,585	△20
流動負債	1,084	1,070	△14
買掛債務	441	471	+30
その他	643	599	△44
固定負債	520	515	△6
純資産	3,461	3,493	+32
株主資本	3,425	3,453	+28
(自己株式)	△21	△21	△0
その他の包括利益累計額	30	33	+4
非支配株主持分	7	7	+0
株主資本比率	68%	69%	+0%

■ 売掛債権

(単位：億円)

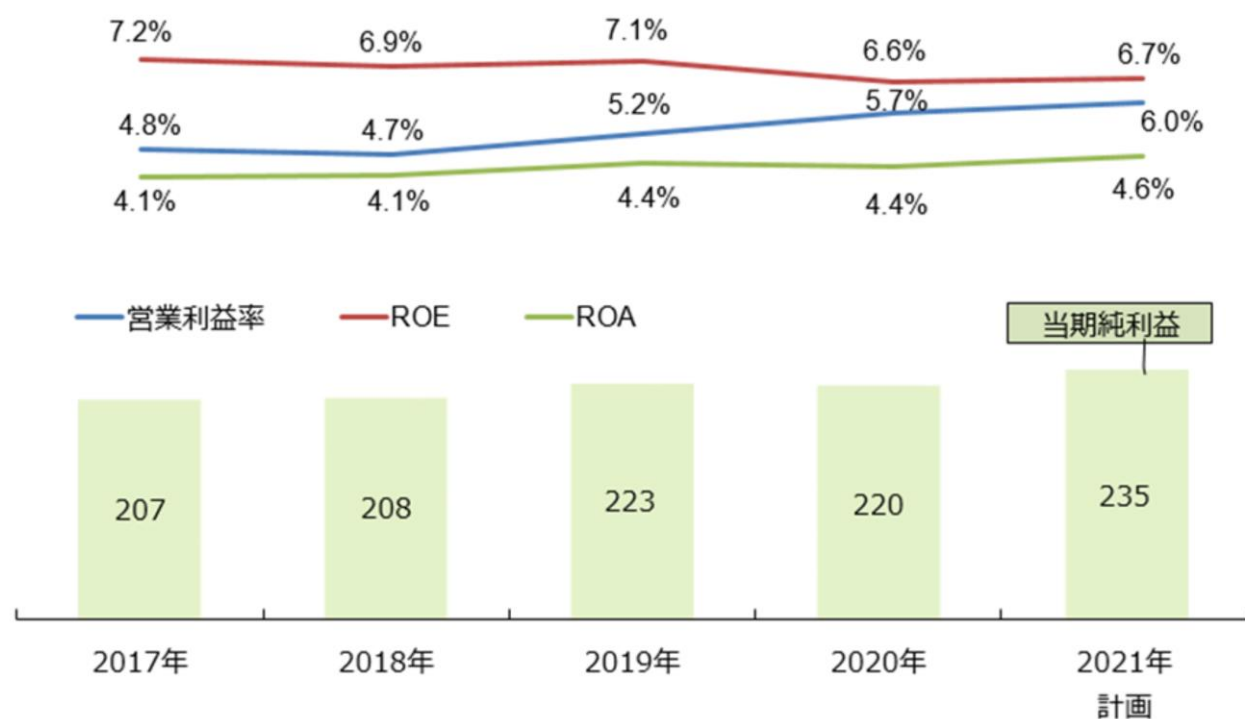


■ 棚卸資産

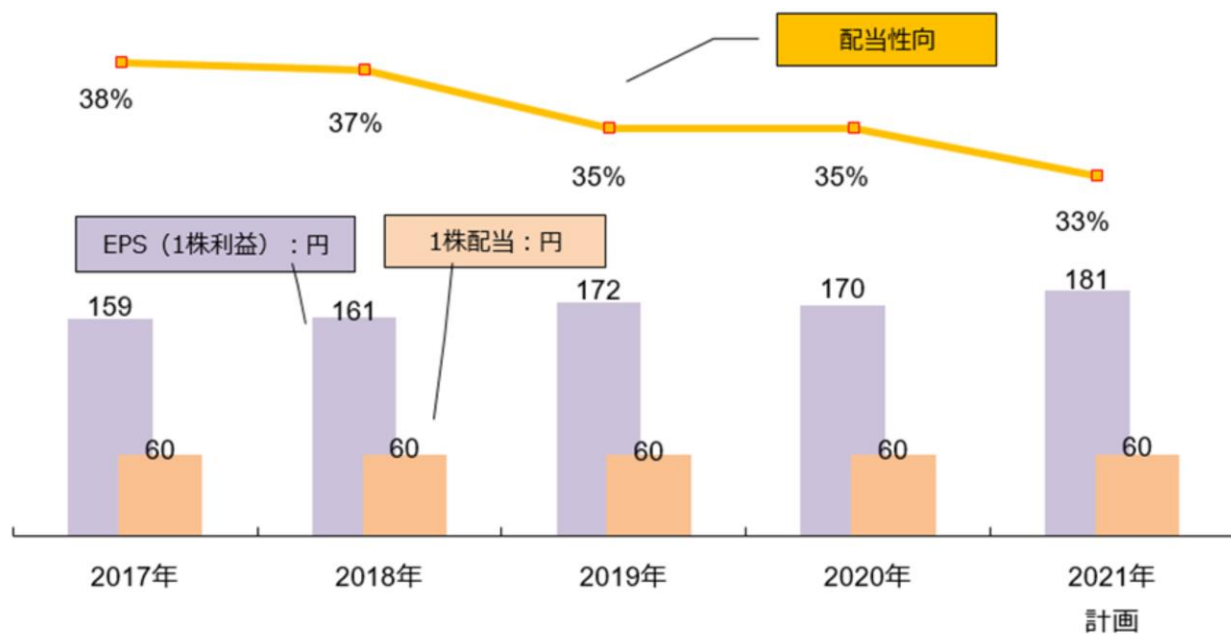


【参考】財務指標推移 営業利益率／ROA／ROE

(単位：億円)



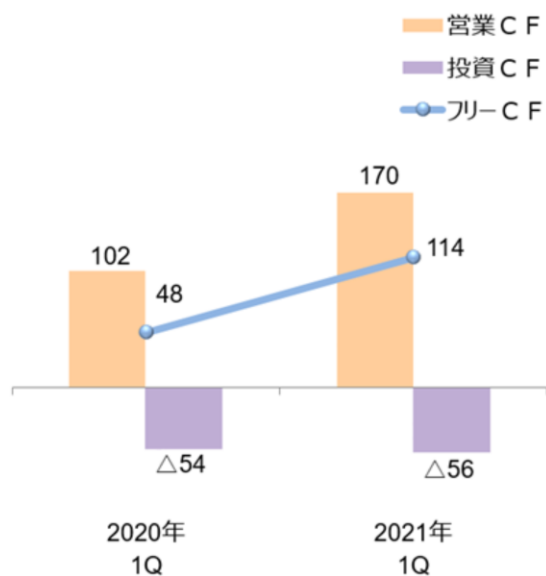
【参考】財務指標推移 配当性向／EPS／配当



【参考】キャッシュ・フロー／設備投資・減価償却

(単位：億円)

■キャッシュ・フロー



■設備投資

	1Q	2-4Q	年間
2020年	28	135	164
2021年 計画	32	118	150

※2021年1Qは実績を記載しております。

■減価償却

	1Q	2-4Q	年間
2020年	29	83	113
2021年 計画	26	93	119

※2021年1Qは実績を記載しております。

Canon

キャノンマーケティングジャパングループ